いい質問とは

校　長　　武井　正明

来シーズンの開幕は松井巨人と工藤中日の激突で始まる。５月には新潟でも横浜と松井巨人の試合が組まれている。まだ 11 月なのに、久々に来季が今から楽しみで堪らない。

松井が監督になってから巨人の秋季キャンプが連日報道されている。
先日、ある若手が松井監督に「どうしたらホームランが打てますか？」と質問した。
新監督はおそらく社交辞令だろうが「いい質問だね」と寛大に返したという。
私はこの若手の、松井監督に臆することなく質問した度胸は認めるが、質問内容にはガッカリを通り越して呆れた。少年ファンか？きっとイチローだったら冷たくスルーだろう。

私はゴルフで悩んで、研修会の先輩方に指導を仰ぐ際、自分自身の最低限のマナーとして心掛けていることがある。
まずは指導を仰ぐ前に「自分自身で徹底的に考える」ことだ。そしてその克服のために最低一カ月は継続して練習してみる。先輩たちは「利用ツール」ではない。手軽に訊いて近道して得た答えなど、たとえそれが正解であっても何も身に付かない。
次は「出来るだけ具体的に詳しく説明する」ことだ。
今の自分はこういう傾向があり、ここまでは出来るのだけれどここが出来ない。そのためにこうしてみたけれど、またこうなってしまう…。
そこまで説明すると、多くの引き出しを持つ諸先輩は、それぞれの豊富な経験から得た知見を基に真剣かつ具体的に教えてくれる。

そしてそれだけで終わらない。
その後、ふと練習場で私を見掛けた時に、貴重なヒントになる金言をくださるのだ。
真剣さは必ず伝わる。伝わると必ず気に掛けてくれる人がいる。そして「武井クンのダウン、マイナスが多いな（鋭角に入り過ぎ）」その一言が開眼のきっかけになるのである。

先述の若手選手に戻る。
あれだけホームランを追究し量産してきた松井秀喜に、そんな雑駁な、即答できない質問はすべきではない。彼がすべき質問は、現在の自分の技量に応じた悩みや課題についてである。あまりにも浅はかだと思う。もっと深く考えてほしい。
巨人軍の若手選手たちよ。こんな恵まれた環境はないのだからもっと自分に厳しく、うんと練習してほしい。御託を並べる前に、徹底的に練習量を熟して自分を限界まで追い込んでほしい。「量より質」などという台詞が出てくるのはもっと後の話だ。
それくらいじゃなきゃ、来年の巨人軍は変わらない。監督が変えてくれるのではない。チームを変えるのは選手自身だ。若手の必死な眼が見たい。まだまだ甘いと思う。

（敬称略）